文化

新なら民俗通信 21

安田 真紀子

江戸時代のおもちゃを復元

誰もが楽しむ手作り

安田 真紀子

▼奈良町からくりおもちゃ館

「奈良町からくりおもちゃ館」は、明治初期の雰囲気が残る町家の空間で、江戸時代の史料に基づき復元された「からくりおもちゃ」を、実際に触れて遊ぶことのできる体験型の施設だ。

2012年、奈良市により設置され、今年4月に10周年を迎えた。からくりおもちゃを通して、世代間の交流、地域住民・観光客との交流の機会を提供し、地域活性化に寄与することを目的としている。

「からくり」というと、茶運び人形や山車（だし）からくりのような複雑な機構を連想するかもしれないが、館で展示しているのは江戸時代の庶民が遊んだ単純な仕掛けのおもちゃである。糸を引いたり、風や水・重力などの自然の力を利用して動かす仕掛けで、子どもでも理解できるものが多い。

▼玩具の復元研究

館所蔵のおもちゃは、1986（昭和61）年より2010（平成22）年まで、奈良大学文学部史学科の近世史研究室（鎌田道隆・元学長の研究室）で復元されたものを基盤としている。筆者も研究室の一員として、復元に携わった。

江戸時代の日記や随筆、浮世絵や絵本には、多くのおもちゃが登場する。ところが、おもちゃは消耗品であり、殊に江戸時代のものは木・竹・土・和紙・布といった自然素材で作られていることから、当時のものはほとんど残っていない。

そこで、近世史研究の一環として、さまざまな史料から復元を試みることとなった。

しかし、おもちゃが登場する史料は多いものの、断片的な記事ばかりで、作り方を記した史料や設計図のようなものは見当たらない。おもちゃのなかには、浮世絵には度々描かれているが、文献には出てこないといったものもある。絵画からは、おもちゃの形や大きさ、色などはよく分かるが、遊び方や内部の構造まではは知ることができない。

つまり、一つのおもちゃを復元するためには、複数の史料が必要で、断片的な細かい情報を丁寧に拾い集めることが重要となる。

▼先人の知恵と工夫

復元の過程では、江戸時代の人々の知識の豊富さ、着想やアイデアの素晴らしさに驚くことが多い。なかでも自然素材の使い方には感心する。木にしても竹にしても、自然のものは不均質で形も整っておらず個性が強い。

それを使いこなすには、知識と知恵と高い技術が必要なのだが、当時の人々は事も無げにやってのけている。江戸時代の人々は自然素材の特徴をよく理解しており、素材それぞれの特徴を最大限活かす形で、おもちゃに利用している。用途に応じた材質を見極め、素材に応じた加工を施し、シンプルな仕掛けでありながら、驚きのある動きを生み出している。

たとえば、「ご来迎」というおもちゃは、阿弥陀様の後光に見立てた和紙が筒から出たり入ったりする仕掛けだが、和紙の強靭（じん）で、しなやかな特徴を利用している。折りたたんだ紙を開いたり閉じたり、何度も繰り返して筒に出し入れできるのは和紙ならではの技である。現在のコピー用紙のような紙では、到底成立しない。

また、「ご来迎」という庶民が極楽往生を願う気持ちを、おもちゃに込めたアイデアも秀逸だと思う。

動力にも、竹の弾力をバネとして利用したり、砂や水の落下する力や風力を使うなど、当時の人々の科学に関する知識の深さが窺（うかが）える。

▼大人の興味

江戸時代中期以降、おもちゃは庶民に広まり、種類も飛躍的に増加する。泰平の世の中において、流通網の発達を背景に、おもちゃは親が子どもに作って与えるものから、量産販売品へと変化していく。都市の発展や旅の流行も相俟（あいま）って、おもちゃが社寺の門前や縁日で売られ、縁起物・土産物として各地へ広まっていった。

安永2（1773）年に刊行された玩具絵本『江都二色』には、88種類のおもちゃが掲載されているが、仕掛けによって動くおもちゃが多い。江戸時代は海外との交流が基本的に閉ざされたことで、独自の文化が開花し、おもちゃにおいても様々（さまざま）な工夫がされ、日本独特の意匠や仕掛け「からくり」が発展し、技術的にも優れたものが考案された。

加えて、大人がからくりに対して関心を寄せ、仕掛けの開発に真剣に取り組んだことで、工夫に富んだ多種多様のおもちゃが誕生した。

前述の通り、江戸時代の日記や随筆に、おもちゃの記事を散見する。座敷遊びや酒席から誕生したおもちゃも見受けられる。子どもだけでなく、大人もおもちゃに関心を寄せていたのだ。この大人の好奇心が、単純な仕掛けのおもちゃから、茶運び人形などの座敷からくり、和時計、蒸気機関などへと向けられ、近代以降の科学技術の発展に大きく貢献した。

▼からくりおもちゃの可能性

自然素材を組み合わせて、子どもからお年寄りまでが楽しめるからくりおもちゃには、人間性の教育資源としての可能性があると思う。自然素材に人間的な優しさを加えて加工していく過程は、ものを作る喜びや手作業の楽しさを発見でき、作り上げた手作りのおもちゃで遊ぶ楽しさは、完成の喜びとともに、仲間づくり、ルール作りにも発展する。

奈良町からくりおもちゃ館では、からくりおもちゃの啓発と技術の継承を目的に、製作体験講座を開催している。先人たちが作り伝えてきたからくりおもちゃの知恵や技術を伝承し活用していくことは、自然との共生、環境へのまなざしの発見にもつながると思っている。

（やすだ まきこ＝奈良町からくりおもちゃ館館長、奈良大学 非常勤講師）

＝次回は8月5日付＝

◇　◇

「奈良町からくりおもちゃ館」＝奈良市陰陽町7番地、電話0742（26）5656。開館は9時～17時。水曜日休館。

復元したからくりおもちゃ。中央奥が「ご来迎」